（　地理総合　）学習指導（活動）案

【実践者】
氏名　　内田　大資
学校名　　北海道静内高等学校
学年（人数）　1年次　194名
実施教科（領域）　地理総合

【関連するSDGｓ】（4、6、9、10、11、16、17）

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：生活圏の持続可能な減災

C 持続可能な地域づくりと私たち（1）自然環境と防災「生活圏の持続可能な減災」

（外国人との共助 –多文化共生×減災–）

2. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：

【知識・技能】

①我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。

②様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。

【思考・判断・表現】

「私たちが災害から自分の命と地域を守るためにはどうすればよいか？」について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、「SDGs×多文化共生・異文化理解×地域協働減災」という主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現できる。

【主体的に学習に取り組む態度】

我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害、及び地域性を踏まえた防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

3. 単元計画（全　21　時間）

時	ねらい	学習活動	資料など
1 ～ 6	◎国際理解 世界の人々の特色ある生活文化の多様性や変容、自他の文化を尊重し、国際理解を図ることの重要性の理解	①課題設定（興味関心ある国や地域の選択） ②情報収集 ③整理分析 ④まとめ・発表	・資料集 ・書籍 ・新聞 ・インターネット
単元全体に関わる問い「私たちが災害から自分の命や地域を守るためにはどうすればよいか？」			
7	事前学習・動機付け	①オリエンテーション（目標《ゴール》・活動時間・進め方・ルール・評価等） 学習目標共有・見通し・評価材評価規準・探究サイクル・個人目標設定 （「本校で育成すべき10の力」より、この単元で身に付け磨きたい資質能力設定） 全体ﾙｰﾙ・視点着目点・チーム編成 （役割分担・ICT作業） ②地域のコースや自宅を確認、Googleマップを活用・危険箇所確認 ③防災に関する興味関心ごとの情報収集	・生徒指導部通信

8 ～ 10	動機付け・問題発見・ 情報収集② ※地域・行政・専門家との連携・協働 ・専門家による災害の講話 ・専門家の観点からの全体を見据えた助言 ・地域住民との意見交流による仕上げ	①リサーチとヒアリング（歴史的背景） 【前半：外国・日本　後半：地域】 ○　自然災害のメカニズム（各災害） 【自然システム的アプローチ】 ・３年次「地学基礎」授業見学、中学校理科での知識確認 ・仕組み、起こりうる危険、身を守る方法のまとめ ○　世界（大項目Ｂで学習した地域・国）の自然災害事例 ・諸資料の比較分析・考察【社会・経済システム的アプローチ】 【グローバルスケール】 ○　日本の自然災害事例【ローカルスケール】 ・阪神・淡路大震災、東日本大震災、北海道胆振東部地震 ・地域の現状、震災当時の被災状況の理解、自助共助 ・特徴と自然環境の理解（GIS 活用）・これまでの対応 ○　地域の自然災害事例（日本海溝・千島海溝地震） (1) 協働先による授業 （ミッション・現状課題・ビジョン・ゴール） (2) 中標津町の多文化共生事例 (3) 予想災害について GIS を活用して把握	・「地学基礎」見学資料 ・JICA 関西資料 「JICA の災害協力」 「国際防災研究センター10周年記念誌」 ・JICA 研修資料 「地域社会と多文化共生」
11	ビジョン・ゴール設定 計画設定	①プロジェクトテーマ（単元を貫く問い） ○　計画を設定する ・自分との結びつきを踏まえたビジョン・ゴール設定 ・現時点での単元全体に関わる問いに対する答え ・計画書作成（筋道・調査項目・調査方法・役割分担） ・SDGs との関連性・他のチームとの共有・意見交換	
12	【習得】情報収集③	○　情報を収集する ・ICT（Google デバイス）を活用した情報収集（アンケート・インターネット・統計・地図・公的機関・SNS） ・他地域の事例（比較） ※東川町・中標津町・新冠町・浦河町 ・地理的技能活用習得（地域周辺情報収集分析） 読図作図・衛生空中景観写真読取・GIS（今昔マップ・地理院地図・ハザードマップ・RESAS・Google マップ） ・先行事例（先哲）・防災ハンドブック・新聞・書籍 【新ひだか町図書館との連携】 ・フィールドワーク（北海道 HSL 日本語学校・ALT・役場へアンケートインタビュー・学校周辺海抜視察）	・ODA 見える化サイト ・JICA 資料

13 14	【活用】整理分析・ 解決策検討 【本時】	○　収集情報を整理し、分析（仮説の検証） ・資料収集や聞き取りから整理し、仮説の妥当性を検証する ・思考ツール活用 →情報関連付け・知識技能の概念化 ○　紙と ICT 端末活用＝地理的技能活用・習得 （1）収集資料の地図化・統計グラフ化等 （2）地図を有効活用し、自己解釈を加えたアイデアと説明 （3）不十分な点の情報再収集と整理分析	
15 16	まとめ・アイデア製作	○　まとめ（報告書の作成） ・日本（地域）と海外の比較・関連 ・英語科国語科保健体育科情報科との教科横断 ○　発表資料（企画書・成果物）作成 ・多様な手段で表現（PPT・ポスター・プロジェクト・作品・映像等） ・他者とのアイデアの比較 ・他者との比較を踏まえたアイデアの再構築（再整理）	
17 18	【探究】【伝災】 プレゼンテーション	○　中間発表 ・地学基礎履修者（3 年次生）への発表、クラス代表決定 ・作成した調査報告書（提言書）に基づいて、自らの解釈を加えて発表し、上級生と意見交換を行う ・沖縄県立普天間高等学校への発表 ・沖縄県の方々との意見交流・事象の違い（異文化）理解（テーマ：SDGs）	
19	再構築	・他地域（沖縄県）の高校生からのフィードバックを基に、全体発表資料をクラスで修正	
20	【探究】【伝災】 プレゼンテーション	・地域の方々（役場・中学生・住民）、授業で関わって下さった方々、 東京都板橋区板橋第三中学校へのプレゼン ・課題や疑問点も伝える ・相手意識を持ち自分たちの思いを伝える ・フィードバックと質疑応答 ※生徒の疑問点や詳しく知りたい点のアドバイスもいただく	
21	振り返り 成長確認	・報告書作成 ・公民館や HP 掲示による地域への発信と共有化 ・保護者への報告（親の防災意識向上） ・単元のまとめ、次に向けた振り返り ・単元を貫く問いをもう一度確認 ・各地域の震災被害の様子を見て、防災減災の思いを高め、新たな課題について考える →次の単元や地理探究に繋げる	

4. 本時の展開（大きいフェーズとしては【情報収集】【整理分析】＝「情報活用」）
本時のねらい：収集情報を目的に合わせて整理手法を選択し手法を活用して視覚化（整理）することにより、知識（情報）を俯瞰的、多面的に捉え、足りない情報と調査したいことを明確化する

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動 ◎生徒　○教師	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
導入 (5 分)	◎学習シート記入 （今日の目標や問い（チーム・個人）・時間確認		
	①単元及び本時の目標（前時に引き続き） 「災害時に外国人に対して適切な避難対応をするためにはどうすればいいか？」 （災害時に外国人に避難情報を容易に理解してもらうためにはどうすればいいか？） ②ねらい 収集情報を目的に合わせ整理手法を選択し手法を活用して視覚化（整理）することにより、 （１）知識（情報）を俯瞰的、多面的に捉える （２）足りない情報と調査したいことの明確化		
展開 (35 分) まとめ (10 分)	◎【個別】「胆振東部大震災時の外国人に対する支援の仕方」に焦点を当てた新聞記事の情報を、思考ツールを活用し視覚化する ◎【協働】個人で視覚化した内容をグループ内で共有し、ICT を活用して、グループとして共同編集で情報を整理 ◎【協働】ワールドカフェ形式による他グループ同士の共有後、再整理 ◎課題解決のための練り直し（まとめ） ◎次時の発表に向けてのスライド作成 ◎振り返り（今日はどこまで進んだか・次回何をするか）学習シート記入・共有	○役割分担だけではなく、 （１）なぜその思考ツールを選択し、活用するのか理由を含めて検討 （２）整理分析時に紙または ICT どちらを活用するかの決定を促す ○記事の中に様々な立場があり、多面的多角的な視点を見つけることを支援 ○「内省の時間」のため一人で取り組む	▲記事：2022 年 9 月 15 日（木）朝日新聞北海道面 ▲中標津町神原様資料 ▲前単元学習資料

5.評価規準に基づく本時の評価（評価方法）
①評定に用いる評価
【思・判・表】
（1）知識（情報）を俯瞰的、多面的に捉え、足りない情報と調査したいことを明確化できたか
（2）収集情報を目的に合わせて整理手法を選択し手法を活用して視覚化（整理）できたか
（成果物・ワークシート）

6.資料および外部との連携
①資料
・気象庁「津波と地震」
・神戸市（教育委員会）、舞子高校、気仙沼市の取り組み
・地理学及び地理総合に関する書籍
・新聞及びネットでの各地域の事例
・JICA 関西からいただいた「JICA の災害協力」「国際防災研究センター10 周年記念誌」
・朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、北海道新聞及びインターネット記事、書籍等
・JICA 関西様の取り組み（訪問時のインタビュー）
・JICA 研修での中標津町神原様のワークシート
・JICA 研修でいただいた「地域社会と多文化共生」
②外部との協働・連携
・新ひだか町役場
・中標津町神原誠司様

【自己評価】

苦労した点	①課題に関する適切な情報収集及び生徒への情報提示に苦労した。生徒の情報収集時間にも限りがあり、ある程度は教員が情報収集及び情報提示を行う必要があったため、膨大な情報から提示する情報の優先順位付けに苦労した。②次時が発表であったため、どうしても発表準備時間を確保しなければならず、その中での意見共有時間確保に苦労した。
改善点	①個別学習の後に他者との共有をできる時間と、ワールドカフェでの他チームの学びを活かせる時間を増やす。②外国人に関する情報収集は、本校 ALT へのインタビューのみとなってしまったため、次年度は JICA の研修員学校訪問を活用し、外国人とのワークショップを行い、情報収集を行う。
成果が出た点	①外国人が災害時にできることできないこと、災害に関してわかっていることわかっていないことを理解することができた。②「地域」の中にも外国人がいて、防災減災を通して外国人に対する異文化理解を深めることができた。
学びの軌跡 （児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等）	・思考ツールをそれぞれの災害対策に合った使い方をすることができた。 ・自分達にでもできる減災がいくつかあり、外国人との共生を視点に検討していきたい。
授業者による自由記述	本時は動機付けと問題発見を目的とした授業である。全体としてはプロジェクト型学習（課題探究学習）ということで、テーマや問いの設定、グループでの活動、ファシリテーションをはじめとした生徒との伴走は大変難しいが、減災と外国人という身近なテーマであることから生徒は自分ごととして取り組み、日々の生徒の成長を感じることができている。目的と手段を履き違えないよう注意深く進め、生徒への問いかけからの広がりを意識している。
学校内外で SDGs 学習・ 授業実践を広める取り組み	地域との協働及び教科横断型授業（英語科・情報科との連携）であることから、学校内外に広めることができている。沖縄県の高校ともオンラインで交流を行なった。